

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2021年9月1日 216号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



釣り体験



レダのタロイモ田にて

第21回国際協力青年奉仕隊

2021年7月9日～23日 パラグアイ



当会現地法人からマリア・アウシリアドーラ村に頑丈な遊具を贈りました。青年奉仕隊は学校食堂に壁画を描き、柱などを塗装し、庭を整備・整地しました。7月21日撮影

子供たちと遊ぶ



子供たちに文具と服をプレゼント

「神様を愛し、人類を愛し、自然を愛そう。
私たちの星をきれいに保とう。」

第21回国際協力青年奉仕隊は、7月9日から23日までの15日間、レダ基地を拠点として、マリア・アウシリアドーラ村での奉仕活動を中心に実行しました。奉仕隊は、日本の青年9名、オリンポ市の高校生7名、エスペランサ村の高校生2名の編成です。以下、前田誠元隊員の便りから抜粋・編集したものです。

7月9・10日 羽田空港に男性隊員5名が集合。島田さんから簡単なオリエンテーションを受け、記念撮影をして出発しました。以後、フランクフルト、サンパウロを経由し、40時間ほどかけてアスンシオンに到着。佐野先生、中井先生、カタリーノさん夫妻が歓迎してくださいました。そして夕食時に交流の時間をもち、スペイン語をたくさん教えていただきました！

長旅による疲労や慣れない環境で、体はへとへと気味ですが、文鮮明先生がエデンの園を創ると決意されたその土地に到着できた喜びがあり、心には力がみなぎっています。「神様を愛し、人類を愛し、自然を愛そう。私たちの星をきれいに保とう」という標語のもと、皆で結束して歩んでいきます！

7月11日 ホテルで朝食。日本とは違う食べ物を味わい、隊員一同で盛り上がりました。神様の創造の妙味の一端を食事から感じたのです。その後、佐野先生を中心に今後の活動に向けたミーティングを持ち、ロマ・プラタへと出発しました。

6時間の車の旅を経てロマ・プラタに到着。レダから来た女性隊員4名と合流しました。夕方ミーティング、そして夕食。

南米に到着してから日々多くの愛を受ける中、「為に生きる」を体現されている先生方や、兄弟姉妹たちの姿にとっても感銘を受けています。これから共に奉仕を行う高校生や、村の子供たちのために、私たち青年奉仕隊が愛を与えることのできる、孝情の実践者となるよう、決意新たに歩んでいきます。

7月12日 きょうは佐野先生を中心に、敬拝と訓読会で一日を始めました。訓読箇所は「道端に咲く一輪のタンポポが、新羅の金の冠より貴い」でした。文先生が、どのようなご心情でこの地を愛されたか、思いを馳せる尊い時間でした。

午前中は、ロマ・プラタの歴史について学びながら、開拓史博物館や学校などの施設を見学しました。15世紀から現代まで、信仰を守り続け、苦しい中でも神様のために歩み続け、町を建設していったメノー教徒の歴史がありました。レダの歴史が後孫に語り継がれる時、私たちもその礎の一つとなるよう、奉仕隊の活動に完全投入していこうと思います。（次面に続く）

青年奉仕隊（1面より続く）

お昼は食卓を囲み、デリのバリーのピザ。午後から男性は携帯のSIMカードの契約を行い、女性に必要な物資を買い入れました。夜は、肉食べ放題の店に行き、これでもかというほどお肉を食べました。こちらが元気に挨拶やリアクションをする事で、店員の方も笑顔で明るくサービスをして下さり、愛は伝播していくということに改めて実感しました。



ローマ・プラタの開拓史博物館。7月12日



レダ開拓の意義と歴史を学ぶ。7月14日

クシオンをする事で、店員の方も笑顔で明るくサービスをして下さり、愛は伝播していくということに改めて実感しました。生まれも育ちも違う隊員たちが、一つの共通点を持ったが故に集うことのできた我ら青年奉仕隊です。いよいよ明日は念願のレダに向かいます！感謝の心情を忘れずに歩んでいこうと思います。

7月13日 朝、文先生の自叙伝より「貧困と飢餓を賢く解決する方法」を訓読しました。「ジャルジンは私を幸福にしてくれました」という最後の一文に、文先生が南米で歩まれたすべてが凝縮されていると感じました。

その後、トロ・パンバ、マリア・アウシリアドールという町を経て、レダに到着しました。移動中は見渡す限りの草原が続く道でしたが、感動や驚き、様々な気づきがあり、とても貴重な時間でした。

レダ到着は夕方5時頃で、夕食をいただき、先生方やスタッフの皆さんと顔合わせをしました。

夜の祈祷会は満天の星の下、研修所2階のテラスで行いました。皆で一日を振り返り、これからの歩みに向けて心情を一つにしていくことができました。

明日からは体験学習です。21年の歳月を経て培われたレダ開拓の現場を、身をもって体験できることに心から喜びを感じます。明日も完全投入していきます。7月14日 朝の訓読は文先生の自叙伝より「パンを与えるよりもパンの作り方を教えよ」でした。「全世界の飢えて死んでいく人たちは私たち全員の責任です」という一文にとっても衝撃を受け、今ある環境に満足することなく、より多くの人々が幸せを感じることのできる世界を実現していきたいと強く感じました。



レダの公館を訪問。7月14日



公館訓読室にて。7月14日

この日は初めに岩澤所長から挨拶があり、「このレダで歩む期間、自らの課題を持ち続けて欲しい」というメッセージを受け、一人一人がこの期間を大切に課題に取り組む、さらに成長していこうと決意しました。

その後は佐野先生が南米の摂理やこれまでのレダの歩みについて講義してくださいました。そして夕方には、文総裁ご夫妻の公館を訪れました。そこでも様々なエピソードを語ってくださいさり、とても意義深い時間でした。

夜は、明日合流する地元の高校生との交流のリハーサルをしたり、歌やダンスの練習をしました。言語や文化の壁はありますが、神様を中心として一つになり、心から楽しいと思えるよう、「為に生きる」ことを、我々青年奉仕隊から進んで実践していきたいです。

7月15日 朝の訓読は、文先生の自叙伝より「青少年よ、志を立てれば人生が変わる！」でした。どの職につくかは一人一人の心次第であって、重要なのは、その後どのような人生を生きるかであるということに改めて理解し、レダで歩むこの期間においても志を持って歩もうと思いました。



豚ランドを見学。子豚が大人気。7月15日



第1農場を見学。ここは菜園。7月15日

午前中はレダの諸活動の現場を見学して回り、先生方や先輩の青年たちが、レダでどのような歩みをしているのか、肌で感じました。すべてゼロから始められ、ここまで素晴らしいものを作りあげてくださった先輩方の精誠に、そして何よりもこのパンタナールの地を愛された文総裁ご夫妻に感謝したいです。

午後からは、子供たちのためのプレゼントの準備と、歌やダンスの練習をしました。子供たち、そして神様が喜んでくださることを思いながら、新しいアイデアや、アレンジなども加えました。こうして皆で最高のものを追求し、備えていけることに心から感謝です！また夕方と夜には、エスペ란サとオリンポの高校生たちが、それぞれレダに到着しました。全員そろって顔合わせをするのは明日ですが、このような環境を準備してくださった神様のためにも、国境、言語、文化を超えて、一つの家族となった姿をお見せできるよう歩んでいきたいです。（4面に続く）

持続可能な福地建設をめざして(3)

飢餓をゼロに

和田賢一



国際連合（UN）の打ち出したSDGs（持続可能な開発目標）の第2項目は「飢餓をゼロに」というものですが、正式には「飢餓を終わらせ、食料安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」となっています。いうなれば、「飢餓ゼロ」の概念がどのようなものを明確に説明しているのです。

前回、述べた「貧困」という概念も、私たちが思い描く概念以上に、さまざまな要因が絡み合っていました。したがって、この項目も飢餓に喘ぐ人々がいるなら、食料を送れば解決するという単純なものではないことは明らかです。

SDGsの飢餓の項目には5つの目標があり、第一番は「2030年までに、すべての人々の飢餓状態をゼロにして、安全かつ栄養のある食料が一年中、十分に得られるようにする」とあります。

では、私たちを取り巻く食糧事情を考えてみましょう。



インド貧民街の女の子。By Billy Cedeno, Pixabay

う。国連食糧農業機関、農林水産省、総務省人口統計などのデータを参考にして、世界を生徒40人の教室であると考えるとき、食料不安のない生徒は29・6人、程度の食料不安を抱える生徒は6・5人、深刻な食料不安を抱える生徒は3・9人だというのです。40人のうち4人が食うや食わずの生活をしているというわけです。

2005年の飢餓人口は8億2560万人でした。その後2014年には6億2890万人と改善されましたが、2019年には6億8780万人と悪化し、



栄養豊富なタロイモを栽培する水田。レダ第2農場

2030年には8億4140万人になると予想されています。新型コロナウイルスの影響により、飢餓人口が1億人程度追加されると予測されています。

このように地球村に飢える人がいるのに、飽食に酔う人、食べ残す人もいるのです。最近よく言われる「食品ロス」を取り上げてみましょう。食べ残しや売れ残り、さらに消

費期限が過ぎたなど、さまざまな理由で廃棄される食品の量は、世界で1年間に13億トンです。そのうち日本では1年間に約612万トンが廃棄されています。その量は何と東京ドーム5杯分です。日本人1人当たりになるとお茶碗1杯分のごはんを毎日捨てていることになるというのです。

さらに深刻なのは、わが国の食料自給率は38%で、62%は海外から食料を買っているのに、廃棄しているのは「ハンパない」というわけです。もはや、世界的飢餓の問題は、私たちの食生活と連動しているというのです。

食品ロスは先進国などに限った問題ではないのです。開発途上国でも食品ロスが深刻です。穀物や野菜を生産しても収穫できなかったり、食品加工する施設や技術がなかったり、さらに流通などのインフラが整っていないかたりしているのです。当然のことながら、その途中で食品が腐って捨てられている

のです。ここまでくれば、飢餓は「人災」の色合いを見せ始めます。

翻って、私たち南北米福地開発協会が南米のパラグアイのレダで進めているプロジェクトをみてみましょう。食糧危機に対する解決策として、淡水魚バターの養殖とエビの養殖、そしてタロイモその他、さまざまな野菜、果実を生産していますが、これらをどう評価すればいいのでしょうか。

まず、レダで生活するメンバーや従業員たちの食生活の中で、レダの産物がどの程度取り入れられ、それが全員の健康にどのような働きをしているのか、考慮する必要があります。

さらに私たちの口に入るもののみならず、周辺住民の健康増進のために役立つっているのかという視点も無視できません。「世界の食糧危機のために」という目標があるのなら、まずは周辺の人々の食生活の改善の実績が問われることは間違いないでしょう。



レダに住む人々が楽しみにしているマンゴー。

さらに、パラグアイの人々への食の改善を目指すのであれば、生産、加工、保管、流通、販売、食事までの一貫した流れの中で、どのように取り組んでいくかという視点も必要でしょう。こうした視点は、現地メンバーの基本的な心構えとして備わっていることでしょう。今、私たちに望まれるのは、明確なプランとその実行です。

食の在り方は、実際の私たちの生活の重要な問題点です。私たちの台所・食卓での食に対する具体的な、食品の節約、備蓄、健康増進などの気配りがあってこそ、SDGsの「飢餓」への方向性と一致していくのでしょう。さあ、家の冷蔵庫の中身を一度総点検してみましょう。（つづく）

文先生の自叙伝より「グローバルリーダーは世界を懐に抱く人」でした。佐野先生の解説で、グローバルリーダーは、一言で言えば役に立つ人間であるという言葉を聞いて、目の前の人のために、愛する家族のために、社会や世界のために、何よりも神様のために生き続ける人になろうと思いました。



地元の高校生たちと国際交流。7月16日



高校生たちが豚ランドを見学。7月16日

の中で、改めて国境は自らの心の持ちようであるいき、全世界が神様の下の大家族になつていくのだと実感することができました。

7月17日 朝の訓読は、文先生の自叙伝より「すべてのものは天からの借り物」でした。文先生の生涯は、まさに生活の中の行動すべてが世界のためである

軽い運動を行い、交流の時間をもちました。その後、地元の高校生たちはレダに関する講義を受け、日本の隊員たちはダンスと歌の練習をしました。

午後、高校生たちはレダの施設見学に、日本の隊員たちはレダに来て初の自由時間でした。男性はランニングをしてプールに入り、筋トレを行うという健康的な時間とし、女性は仕事の時間に当たり、歌やダンスの準備をしました。

夜は皆で集い、感想を語り合つて、一日を振り返り、その後ピンポンパンゲームで大盛り上がりして、最後に祈禱会をして終わりました。

青年奉仕隊のメンバーが全員このレダの地に集い合わせ、実際にコミュニケーションをとったり交流をする

られたと深く感じました。また、すべてのものは神様のものであり、私たちは主管を任されているという自覚を持つて万物を愛していきたいと思いました。



タロイモ掘りを終え、皆笑顔。7月17日



パクーの養殖池に入って... 7月17日

ためらわず、作業に集中する姿を見て神様が喜ばれていると感じました。

午後、パクーの水揚げ。皆で幅の広い網を持って深さ2メートルほどの養殖池に入り、魚を追いながら進んでいき、対岸の土手まで来たところで網や手掴みで大きな樽に入れていきました。その後、約1000匹ほどのパクーを皆で手分けして捌きました。他ではできない貴重な体験で、みな大興奮の時間でした。

夜は昨日のように皆で円になって、一日の反省会を行いました。エスペランサとオリンポの高校生、また日本のメンバーから「初めての体験でも楽しかった」「日本のみんなと一緒に活動できて良かった」「このような機会を与えてくださった神様に感謝したい」などの感想があり、感動あふれる時間でした。

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区溝口
3-11-15 岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821
FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行
記号10280 番号61349751
一般社団法人 南北米福地開発協会
E-メール: office@asd-nsa.com
ホームページ: <https://asd-nsa.com>
Facebook: <https://www.facebook.com/ledaproject.jp/>

会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット（印刷済み）、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



入会申し込みは、左のQRコードから、ガールフォームでも行えます。パソコンでは下記のURLにアクセスしてください。

<https://asd-nsa.com/nk/>

支援金、会費納入とも、クレジットカードをご利用できるようになりました。

レダ・プロジェクト紹介用 パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>